

# きになる梨情報



みんなで進めよう  
茨城農業改革

第 54 号 平成 28 年 4 月 22 日 県南農林事務所 経営・普及部門（土浦地域農業改良普及センター）

**注意** 黒星病の芽基部病斑が見られます！ 4 月の管理は非常に重要です！

現在みられる黒星病の芽基部病斑は、昨年の秋季に新梢先端付近の芽を中心に感染し、そこで越冬したものが発症したものです。病斑は、例年より早い時期から確認されており、放置すると被害が大きくなります。対策が遅れないよう注意してください。

昨年の落葉から舞い上がる伝染源(子のう胞子)も、昨年より早い時期から飛散が始まっており、雨が降るたびに多くの胞子が感染をねらっている状態です。防除効果を落とさないよう、薬剤散布の間隔が長くならないよう、特に注意してください。

この時期は、黒星病だけでなく、晩霜や降雹等にも注意が必要です。多目的防災網の早期展張(ただし、降雪時には積雪による倒壊に注意)、防霜ファン、燃焼資材等の準備をしておきましょう。

## 1 黒星病の芽基部病斑は、見つけ次第、切除しましょう！

芽基部病斑は、放っておくと感染源となり、降雨の度に次々と二次感染を引き起こします。

発症後に薬剤で治療することは難しいため、早急に、病斑が残らないよう芽ごと切除し(写真)、必ずビニール袋に入れて園外に持ち出しましょう。

大変な作業ですが、労力を確保して、徹底的に病斑除去するようにしましょう。



写真 病斑は果そうごと切除

## 2 人工受粉後(落花期)の薬剤散布は最重要ポイントです！

開花直前の防除から落花期の防除までの間隔(日数)が大きくなると、黒星病の発生が増える傾向があります。天気予報をよく確認し、人工受粉後の防除が遅れないよう、十分に注意しましょう。

また、落花期の防除は、『平成 28 年版 露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例』等を参考に、登録内容の範囲内で、たつぷりと、かけむらのないように散布しましょう。効果がある薬剤であっても、登録内容の遵守及び耐性菌発生予防の観点から、年間に同じ薬剤を何度も使用することはできません。今回の散布効果が十分に発揮できるよう、特に丁寧に散布してください。

## 3 落葉からの子のう胞子飛散が続いています！

昨年の落葉を集め、飛散する胞子数を数えています(本県園芸研究所)。結果は、図の通りで、今年は、3月19日頃から飛散が始まり、4月14日の降雨以降、飛散量も増えてきました。

なお、調査地点は笠間市安居で、降水量は笠間市の観測地点データです。

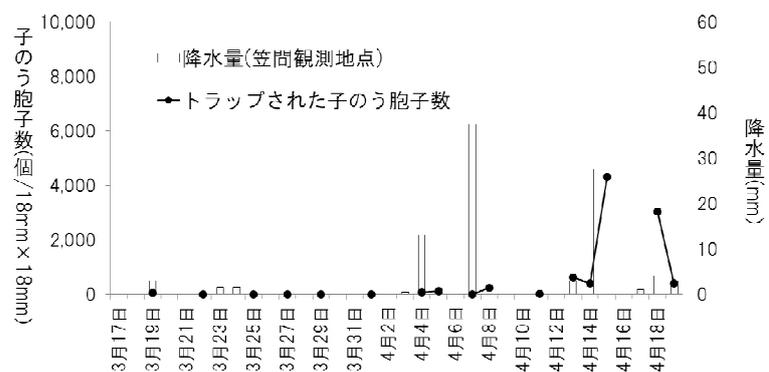


図 落葉からの子のう胞子飛散状況(園芸研究所調べ)